

(様式第4号)

## 調査研究完了報告書

調査研究課題	茨城県における梅毒患者の実態調査に関する研究
研究期間	平成30年度～ 令和元年度 2年間
目的	梅毒患者について、より詳細なアンケート調査を実施することで実態を明らかにし、梅毒を含めた性感染症の検査受診の促進及び効果的な予防啓発に寄与することを目的とする。
得られた成果	<p>梅毒患者に関するアンケート調査票を84例回収し、解析を行った。その結果、患者の性的接触相手は、男性異性間では「風俗店」、男性同性間では「インターネット・SNS等で知り合ったその場限りの相手」、女性では「特定のパートナー」が最も多かった。また、無症状病原体保有者においては、健診や術前検査等で偶然発見される例が多かった。</p> <p>本調査により、本県の梅毒患者のうち男性の多くは風俗により、女性の多くはパートナーから感染していることが示唆された。また、梅毒感染に気が付かない例も多く存在していることが分かった。</p>
成果の普及・活用方法	<p>上記の結果と発生届の内容を併せて解析し、日本公衆衛生学会、日本感染症学会、茨城県エイズ治療拠点病院等医療従事者に対する研修会及び保健と福祉の事例発表会等で口頭発表を行い、県民、医療機関をはじめ広く梅毒に関する普及啓発を行った。</p> <p>また、今後は日本感染症学会等での発表及び衛生研究所年報への掲載を予定しており、引き続き普及啓発を実施していく。</p>
残された課題・問題点	梅毒に関する普及啓発を広く行ったが、本調査によりリスクが高いと判断された風俗関係者及び若年層への効果的な普及啓発が不十分であるため、今後はターゲットを絞った知識の普及及び予防啓発を実施していきたい。

## 完了評価結果報告書

令和 2年11月24日

調査研究課題		茨城県における梅毒患者の実態調査に関する研究	
評価項目	評価	意見	備考
①調査研究の妥当性	5, 5, 5, 5, 5, 5, 4  平均評価点 4.9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・依然として減らない性感染症についての調査は有効である。</li> <li>・直近2年間の状況をアンケートにより調査したので、現状把握ができ、費用対効果が高い調査である。</li> <li>・限られた予算の中で成果を上げた研究である。調査実施が難しい中、行政研究機関が実施する意義のある研究であった。</li> </ul>	
②目標の達成度	5, 5, 5, 4, 4, 4, 4  平均評価点 4.4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケートに基づいた研究であるが、概ね目標通りの成果が達成できた。</li> <li>・学会への口頭発表を行うなど、順調に研究が進展した。</li> <li>・日本全体の結果と同様であるが、診断した医師の協力のもと、茨城県の実情が明らかになったと考える。</li> <li>・実態と感染経路の推定ができたことは成果である。今後、結果の活用が期待される。</li> <li>・情報源が医療機関に限られた点は致し方ないのかもしれない。</li> </ul>	
③成果の意義、達成度	5, 5, 5, 5, 5, 4, 4  平均評価点 4.7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本疾患の感染抑制に重要なデータが得られている。</li> <li>・男女別の感染経路の推定がされ、今後の普及啓発に活用できる。</li> <li>・学会や研究会での成果発表を行い、県民や医療機関への情報提供がなされた。活用が期待される。</li> <li>・成果は保健衛生行政上貴重なデータである。HIVやその他の性感染症と同様に、NGOやNPOなどと連携して予防活動が期待される。</li> <li>・成果の活用において専門性の高い学会等での発表だけでなく、広く県民に啓発する工夫が必要と思われる。</li> </ul>	
④総合評価	5, 5, 5, 5, 5, 4, 4  平均評価点 4.7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究の目標は概ね達成できた。</li> <li>・医療機関からの限られた情報提供の中で、梅毒患者増加の要因の一部を明確化したことは評価できる。幅広い啓蒙活動が望まれる。</li> <li>・本疾患の感染拡大要因に関し、確実なデータが得られている。これらの有用なデータを着実に公表していることも高く評価できる。英文誌などに公表することを望みたい。</li> <li>・感染者が増加した梅毒について、医療機関と連携して患者情報を詳細に収集した貴重な研究</li> </ul>	

		<p>である。成果を余すところなく活用し、予防活動につなげることを期待する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>この結果を、梅毒感染のリスクの高い集団への予防啓発に生かしていただきたい。感染経路の傾向に関する他県の情報があれば、比較することで梅毒対策に役立つと考えられる。</li> <li>今後の普及・啓発が課題であるが、外部機関と連携して取り組むのが効果的である。</li> </ul>	
--	--	---	--

評価点 1：不良 2：やや不良 3：普通 4：やや良好 5：良好

追跡評価実施の 要否	要：0人 否：7人		
---------------	--------------	--	--